



他市で実施している通園送迎用のバス

習で支援するようになり、市の考えは。

市立の立場として、研修の機会や研修費用補助は考えていないが、連絡会を組織化し、資質向上の支援をする。

◆人口減少対策について

共働き夫婦の子育て支援のため、早朝から子供をあずけられる送迎保育園や駅前送迎ステーションなどの整備を行うことにより、「子育てしなくなる街・日本一・塩尻市」の魅力を高め、移住者の増加につなげていくことについて、市の考えは。

多様化している保護者の状況やニーズを分析し、子育て支援策として、安心して子供を産める環境の整備や子育てしやすい環境づくりが必要と考える。

こうしたことが人口増にも

つながることであり、今後検討していく。

市政同志会 2015
 質問者 篠原 敏宏
 中原巳年男・村田茂之
 持ち時間100分

塩尻市の「線引き制度」を検証する

◆線引き制度45年間の総括を

昭和46年に始まった都市計画区域区分（線引き）制度による市街化調整区域設定について、都市政策及び地域政策の観点から効果、成果を総括してほしい。

当市の市街化調整区域においては、無秩序な開発を抑制することによって優良農地や宮農環境を保全することができている。また市街化区域のほうは区域内の人口密度は1ha当たりの人口40人を維持できており、効率的な行政経営と利便性の確保という都市計画の目的を確保できていると考える。

◆「線引き制度」の見直し

制度の廃止を含め、線引き制度は見直しの時期では。

人口減少時代を迎え、無

秩序な市街地の拡大防止、さらに優良農地の保存と宮農環境の保持が「未来につなぐ田園都市」塩尻市にとって重要なことは今後も変わらないことから、線引き制度は堅持していきたい。

線引き制度はメリットもあればデメリットも大きいことは他会派の質疑でも明らかだ。線引き制度を堅持していくとすれば、地区ごとの課題整理や区域の見直しを含め既存集落の維持とコミュニティの維持対策に万全を期されたい。



松本市に接する吉田・若宮と隣接の調整区域。高校通学路にもなっているが…。

◆空き家バンクの活性化

市の空き家バンク制度は効果的に機能しているか。

現状の空き家バンクは登

録10件、成約7件で過去を上回る実績となっている。

それでは十分な実績とはいえない。空き家バンクは要望にそった物件を見つけ提示し、ちゃんとお客様に手渡すいわば「不動産業」だ。市街化調整区域の優良空き家を対象から除外したり、相談が肝心なところまでくると業者に手渡してしまうなど、お客様に気が利いていない制度。このままでは成約実績が上がらないと思うがどうか。

空き家コーディネーターを配置しきめ細かい相談対応に心がけている。市街化調整区域の空き家は、売却、建て替えなど県の基準が緩和されたこともあり、相談には乗っている。今後はバンクの対象にする方向で検討したい。

空き家対策は、地域の実情を熟知した区等が関わることでとても有効に思う。こういう動きに対し、市からできるサポートはないか。

北小野の地区振興会定住対策部会の取り組みが良い例だが、空き家コーディネーターや地域おこし協力隊員によるマッチング支援、生活クラブとの包括連携協定、都市農